

平成26年度

高志の国文学館 文学講座

(大学連携シリーズ)



開催日及び講師

第1回

6月8日(日) 天平の絵馬を読み解く

富山大学人文学部教授 次山 淳

第2回

6月22日(日) 近世日本における中国笑話の受容について

富山県立大学准教授 川上 陽介

第3回

7月20日(日) 日系アメリカ人の文学活動 — 強制収容所における文学

富山大学医学部准教授 水野真理子

第4回

8月3日(日) 文学にとって〈ふるさと〉とは何か — 須山ユキエ論 —

富山高等専門学校一般教養科准教授 近藤 周吾

時 間

14:00～15:30

場 所

高志の国文学館 研修室101

定 員

72名(定員に達し次第、締切)

受講料 無 料

申込方法

裏面の受講申込書に必要事項を記入し、郵送またはFAXにて高志の国文学館まで送付してください。メールでのお申込みの場合は、①氏名、②講座名、③県民カレッジ単位希望者は住所・電話番号を記載してください。(お電話でのお申込みも受け付けます。)

※受講票などは送付いたしません。(定員に達し、受講いただけない場合のみご連絡します。)

そ の 他

3講座以上受講された方には、希望により県民カレッジの単位(5単位)が認定されます。

問 合 せ
申 込 み 先

高志の国文学館

〒930-0095 富山市舟橋南町2-22

TEL:076-431-5492 FAX:076-431-5490

Mail:koshibun@esp.pref.toyama.lg.jp

受講申込書

ふりがな 氏名	
住所	(県民カレッジの単位希望者のみ記載してください) 〒
電話番号	

受講を希望する講座に○をつけてください(複数可) ※定員に達し、受講いただけない場合のみご連絡します。

	日	講座名	講師	講座内容
<input type="radio"/>	6/8 (日)	天平の絵馬を読み解く	次山 淳 (富山大学 人文学部教授)	現在、私たちは社寺に参詣し、願い事を記した絵馬を折りを込めて奉納します。こうした絵馬は、私たちの暮らしの中にいつ頃どのように登場してきたのでしょうか。この講座では、奈良時代の都であった平城京で発掘された絵馬を手がかりに、初期の絵馬の姿を紹介します。そして、その絵馬に天平びとのどのような折りが込められていたと考えられているのかについてもお話ししたいと思います。
<input type="radio"/>	6/22 (日)	近世日本における中国笑話の受容について	川上 陽介 (富山県立大学 准教授)	今回の講座では、江戸時代に中国から伝来した笑話集『笑府』『笑林広記』を取り上げ、中国笑話が江戸時代の人たちに、どのように読まれ(訓点つき和刻本の出版)、翻訳され(対訳本や日本語訳の出版)、話されたか(『落語』の前身である『咄』を集めた『咄本』の出版)、具体的な作品を読みながら、じっくり考えたいと思います。江戸の笑い与中国の笑いを存分に味わいましょう。
<input type="radio"/>	7/20 (日)	日系アメリカ人の文学活動 —強制収容所における文学	水野真理子 (富山大学 医学部准教授)	現在「日系アメリカ人」と呼ばれる人々は、渡米当初の1880年代から、日本人社会で発行された日本語新聞の文芸欄を主要な場として、盛んに文学活動をおこなってきました。太平洋戦争の勃発を契機にはじまった日系人の強制収容期においてさえも、一世、二世世代ともに、収容所において短歌、俳句、詩、小説などの文学を作り上げようとする人々があり、多くの同人雑誌が生まれました。本講座では収容所における文学活動に着目し、彼らが置かれた状況と過酷な環境のなかで文学に描こうとしたものを考察してみたいと思います。
<input type="radio"/>	8/3 (日)	文学にとって <ふるさと>とは何か —須山ユキエ論—	近藤 周吾 (富山高等専門学校 一般教養科准教授)	須山ユキエさんは、福岡県から富山県へ移住してから花開いた作家です。小杉町に住んでいました。代表作に、中央公論女流新人賞を受賞した「延段」があります。長らくただの主婦と思われていた女性ですが、ルーツを探ると、そうでもないことが分かってきました。須山さんと同じく福岡県出身で富山に移住してきた講師が、須山文学にしみ出る2つの<ふるさと>を分かりやすく読み解いていきます。

※取得した個人情報、本講座以外の目的で使用することはありません。